



山形県の古木・名木 No.144

福地神社のハルニレ (ふくちじじゃのはるにれ)

鶴岡市羽黒町狩谷野目

今回は鶴岡市羽黒町福地神社のハルニレの巨木を紹介します。福地神社は鶴岡市街から県道47号(通称羽黒街道)を東に進み赤川から2kmの距離にある神社で、道路わきにハルニレの巨木が立っています。ハルニレは北日本に生育するニレ科ニレ属の落葉高木ですが、同じニレ科のケヤキとは異なり、県内には巨樹は多くありません。福地神社のハルニレはインターネットの情報で目通り幹周5.7m、県内1のハルニレと思われませんが、天然記念物には指定されていません。あちこち太い枝が切られた跡も見られますが、枝葉の茂りもよく旺盛な樹勢で、若葉の美しい名木です。

ハルニレは、昔「タモ」と呼ばれ、人の生活と深くかかわりのある木でした。材として使われるほか、その内皮から繊維をとり、縄や糸として利用され、アイヌの伝統的な織物であるアツシ織に使われました。

[山形県森林協会]



[森林やまがた No. 218 号
(2025年7月)掲載]



